

## 第三者評価結果

### A-1 保育内容

		第三者評価結果
A-1-(1) 保育課程の編成		
【A1】	A-1-(1)-① 保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて全体的な計画を作成している。	a
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>運営法人の各系列園では、法人の定める保育理念に沿った園ごとの保育目標と保育方針が設定されています。全体的な計画は、児童憲章、保育所保育指針などの主旨をとらえ、法人の理念に基づいて、本社で骨子が作成されており、それをもとに、子どもの様子や家庭の状況、地域との連携などを考慮して、園ごとに作成しています。</p> <p>園では、園長はじめ、各クラスの担当職員が、園の保育の方向性を確認しあいながら、意見交換を行い、本社で作成された骨子を修正・追記して完成させています。年度末には、職員会議で保育の実践に対する振り返りを行い、全体的な計画についての評価を行っています。</p>		
A-1-(2) 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開		
【A2】	A-1-(2)-① 生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。	b
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>職員が手作りした木製のおもちゃ棚や仕切りなどが、生活動線を考慮して配置されており、保育室内は温かみの感じられる空間となっています。遊びや睡眠のスペースとは別にランチルームがあり、観葉植物や絵画などを飾るなどして、家庭的な雰囲気の中で全クラスの子どもが集い、和やかに食事ができる場となっています。</p> <p>衛生管理のマニュアルに基づいて、手洗い場やトイレなど、各場所の清掃やおもちゃ・備品の消毒が実施され、園内は清潔な状態が保たれており、温度設定の管理や採光の取り入れなども適切に行っています。</p> <p>園では除湿器をフル活用するなど、環境の改善に努めていますが、園舎の構造上、湿度の上昇が起りやすい環境となっていて、さらなる換気システムの導入などが課題となっています。</p>		
【A3】	A-1-(2)-② 一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。	a
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>子ども一人ひとりの家庭環境や発達過程を把握し、子どもが何を求めているかなど、個々の実態を踏まえたうえで、保育にあたることを共通理解としています。子どもの気持ちを尊重し、受け止め、認めることで、子どもは自己を十分に発揮し、周りの人への信頼感が育ちます。自分は大切な存在であると感じ取って、自分を大切にし、人を大切にするという人としての大切な感情が育つということを園長から園内研修で職員に伝えています。</p> <p>職員は、子ども一人ひとりの気持ちに寄り添い、否定的な言葉を使わず、分かりやすい言葉でおだやかに接することを心がけ、保育の実践につなげています。また、職員同士で共通の視点を持って子どもの姿をとらえることができるよう、情報共有、意見交換をする場を設けて、自らの保育を振り返り、さらなる保育の質の向上を目指しています。</p>		

【A4】	A-1-(2)-③ 子どもが基本的な生活習慣を身につけることができる環境の整備、援助を行っている。	a
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>子どもの年齢や発達に応じて、食事や着替え、排せつなどの基本的な生活習慣が身につけられるよう、個人差を考慮しながら、環境の整備、援助を行っています。子どもが自分でしようとする意欲ややりたいと思う気持ちを大切に見守りながら、声かけや援助を行うことを職員間で共通認識としており、子どもの自主性が育まれるようにしています。</p> <p>食事の際の食器の配置について写真を用いて説明したり、トイレや歯磨きなど子どもが興味を持てるように絵本を用いて話をしたりするなどして工夫しています。歯磨き指導は、2歳後半頃から開始し、歯科医と連携して助言を受けながら、食後の歯磨き習慣が自然と身につくように配慮しています。また、一人ひとりの健康状態に応じて、活動と休息のバランスを考慮し、指導計画を作成しています。</p>		
【A5】	A-1-(2)-④ 子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。	a
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>木製の仕切りや棚、カーテンなどを用いて、保育室の一角にままごとハウスを作ったり、絵本棚の前にじゅうたんを敷いて絵本を読むスペースを作ったりして、子どもが主体的に活動できる環境づくりに努めています。3～5歳児は、散歩に出かける公園を2か所設定し、どちらに行くか自分で選べるようになっており、池がある公園では、カモを見たり、広場のある公園ではサッカーをしたりしています。</p> <p>鬼ごっこやトランプ遊びなどを活動に取り入れて、楽しみながら、自然とルールを覚えられるよう配慮しています。職員は、散歩で行き交う地域の人と積極的に挨拶や会話を交わし、子どもも自然と挨拶ができるようにしています。</p>		
【A6】	A-1-(2)-⑤ 乳児保育(0歳児)において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>0歳児クラスでは、月齢などによる発達状況に応じて、ハイハイやつかまり立ち、歩くなどができるよう、安全な環境を整備しています。園長が作成した資料「mission(ミッション)」には、子どもの表情や様子から、子どもの思いを汲み取り、応答的な関わりをすることで愛着関係を形成していくことについて、記載されています。</p> <p>職員は、このことを第一に保育にあたることを共通認識としており、一人ひとりの様子を見ながら、個別指導計画を作成しています。子どもの目線に合わせて、保育室の壁に鏡やおもちゃの時計を取り付けたり、ボタンやファスナー、マジックテープなどを使っておもちゃを手作りしたりして、子どもが興味・関心を持って、遊ぶことができるよう配慮しています。保護者とは、登降園時に子どもの様子を直接口頭で伝え合っているほか、連絡帳を用いて情報を共有し、連携を密にして双方で子どもを見守る体制づくりに努めています。</p>		
【A7】	A-1-(2)-⑥ 1歳以上3歳児未満の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>職員は、自我が芽生えてくる1、2歳児の特性を考慮して、子どもが自分の意思を発せられるよう、聞く、待つ、見守るといった姿勢を大切にすることを共通認識として保育にあたっています。子どもの目線に合わせておもちゃを配置し、子どもが自分で選べるようにしています。</p> <p>ごっこ遊びのスペースや絵本を読むコーナーなどを工夫して、探索活動が行える環境づくりに努めています。子ども同士の関わりの中で、自分の気持ちを友だちに伝えられるよう声かけを行ったり、職員が気持ちを代弁したりするなどして援助しています。</p> <p>子ども同士で遊びに夢中になっている時はそばで見守り、保育者を求めてくる時は一緒に活動して子どもが満足感を感じられるようにしています。3歳以上児と一緒に遊んだり、散歩に出かけたり、異年齢で過ごす機会を活動に取り入れています。保護者との連携を図り、保護者の意向を個別指導計画に反映させています。</p>		

【A8】	A-1-(2)-⑦ 3歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>「mission(ミッション)」には、子どもたちが安全で快適に過ごせる環境の整備と情緒の安定を図るという「養護」をベースに捉えて保育にあたり、認知能力と非認知能力を育てる「教育」を一体化して展開していくことについて記載されており、職員間で共有して、保育の実践につなげています。</p> <p>3歳以上児クラスでは、徐々に鬼ごっこやカードゲームなどルールのある遊びを取り入れていき、友だち関係を意識しながら活動できるようにして、尚且つ、異年齢での関わりの中で社会性が育まれるよう援助しています。また、子どもたちの自発的な発想を生かして製作活動を行ったり、個々の思いを尊重して、自分で遊びを選択できるように工夫しています。</p>		
【A9】	A-1-(2)-⑧ 障害のある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	b
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>園はワンフロアで段差がない構造となっており、多機能トイレを備えるなど、障害に応じた環境整備に配慮しています。現時点では、障害認定を受けた子どもの在籍はありません。子どもの育ちの状況や様子に応じて、保護者と連携を取り、職員間で対応について話し合いながら、適切な援助に努めています。</p> <p>必要に応じて、医療機関や横浜市北部地域療育センターなどの専門機関からの助言を受けています。職員は、外部研修や園内研修で障害児保育について学び合っており、さらに専門知識を取り入れて、障害のある子どもに適した環境構成をつくりたいと考えています。保護者に対して、障害のある子どもの保育に関する情報を伝えるための取組の実施には至っていません。</p>		
【A10】	A-1-(2)-⑨ 長時間にわたる保育のための環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>長時間にわたる保育の際は、体調に留意しながら、子どもがゆったりと心地よく過ごせるように環境を整備しており、一人ひとりの様子に応じて対応しています。職員は、日々の保育を振り返りながら、おもちゃの補充や空間づくりについて、話し合いを行っており、さらなる環境構成の向上を目指しています。</p> <p>0歳児以外の1～5歳児は、夕方以降、一緒に過ごしますが、職員間で連携して、楽しく過ごせるよう配慮しています。18時半ごろに、おにぎりなどの夕食を提供しています。活動内容や子どもの様子などについては、職員間で申し送りノートを用いたり、口頭で伝え合って、引継ぎを行い、お迎え時に保護者への伝え漏れが無いよう努めています。</p>		
【A11】	A-1-(2)-⑩ 小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している。	b
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>5歳児クラスの指導計画には、地域の小学校と連携して行う交流や学校体験への参加が盛り込まれており、小学校を訪問して1年生の授業見学などを行っています。就学を見通して、基本的な生活習慣が身につくよう配慮して指導計画を作成しています。小学校以降の子どもの生活について見通しを持てるよう、面談などを行い、保護者の不安を保護者解消できるよう配慮しています。</p> <p>就学に向けて、保育士と小学校の教員とが意見交換をする場や合同研修の実施には至っていません。園長の責任のもと、担当職員が参画し、園での子どもの育ち・発達の状況などを記録して保育所児童保育要録を作成し、小学校に送付しています。</p>		

A-1-(3) 健康管理		
【A12】	A-1-(3)-① 子どもの健康管理を適切に行っている。	a
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>子どもの健康管理に関するマニュアルがあり、マニュアルに沿って日々の健康チェックを行って、子どもの健康状態を把握しています。年間保健計画を作成し、看護師が健康に関する話を子どもにするなどしています。子どもの一人ひとりの健康観察記録や成長経過記録を作成して職員間で共有しています。</p> <p>子どもの体調が変化した時やケガなどについては、降園時に直接保護者に伝え、事後対応について話し合っています。既往症や予防接種の状況について保護者から情報を聞いて、児童票に記録しています。乳幼児突然死症候群(SIDS)の予防策については、看護師指導のもと、研修を行っており、睡眠チェック表を用いて0歳児は5分おきに、1歳児は10分おきに呼吸や顔色などのチェックを行っています。</p>		
【A13】	A-1-(3)-② 健康診断・歯科検診の結果を保育に反映している。	a
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>健康診断と歯科健診は、園の嘱託医により、それぞれ年に2回実施されており、結果は個別にファイリングされ、関係職員に周知されています。看護師が中心となって年間の保健計画を作成しており、健康診断と歯科健診の結果を反映させて、保育の実践につなげています。</p> <p>健康診断と歯科健診の結果は、所定の書式で、保護者に伝えています。また、健診前に健康に関する質問や気になることなどを保護者から受け付けて、医師からの回答を保護者にフィードバックしています。嘱託医とは日常的連携を図り、子どもの様子を報告して、電話でアドバイスを受たり、必要に応じて、診察を受けています。</p>		
【A14】	A-1-(3)-③ アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている。	a
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもに対しては、「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」をもとに、医師が記載したアレルギー疾患生活管理指導表の指示に従い、適切な対応を行っています。保護者との連携を密にして、双方で情報を共有し、保育にあたるよう配慮しています。</p> <p>食物アレルギーのある子どもへの食事の提供の際は、トレイや食器を色分けして、名札を用いるなどしており、給食職員から除去食を受け取る際に職員がチェック表に記載するなどして、複数チェックを行い、事故防止に努めています。アレルギー対応に関する知識をより深めるために、本社での研修や園内研修を実施しています。</p>		
A-1-(4) 食事		
【A15】	A-1-(4)-① 食事を楽しむことができるよう工夫している。	a
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>食育計画を作成し、年齢に応じたクッキングや野菜の皮むきなどの下ごしらえを保育活動に取り入れています。ランチルームは、家庭的な温かみのある空間となっており、全クラスの子どもたちが和やかに食事を楽しんでいます。食べるペースや量などの個人差を考慮して、個々に応じた声かけを行い、食べたいもの、食べられるものが少しずつ増えていくように援助を行っています。</p> <p>献立表とランチだよりを毎月保護者に配付しています。ランチだよりには、旬の食材に関する情報やレシピなどを掲載して保護者に情報を提供しています。また、園での食事に関する取り組みを理解してもらうよう、保育参加の際に、給食と一緒に食べてもらう機会を設けています。</p>		
【A16】	A-1-(4)-② 子どもがおいしく安心して食べることのできる食事を提供している。	b
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>栄養士と調理職員は、子どもたちの食べている様子を見て回り、会話を交わすなどして、食べる量や好き嫌いの把握に努めています。月に一度の給食会議で保育士から喫食状況などの報告を受けたり、残食の状況を日々記録して、調理方法に反映させています。</p> <p>献立は、本社で作成され、系列の全園で統一されており、七夕やクリスマスなどの行事食がありますが、園としては、旬の食材を多く取り入れた季節感のあるメニューや四季折々の行事に因んだメニューの提供を増やしてほしいと要望しています。衛生管理のマニュアルが整備されており、給食室やランチルームの清掃・消毒が適切に行われ、清潔な状態が保たれています。</p>		

## A-2 子育て支援

		第三者評価結果
A-2-(1) 家庭との緊密な連携		
【A17】	A-2-(1)-① 子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。	a
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>登降園時などに園での様子、家庭での様子を口頭で伝え合っているほか、0～2歳児クラスは、連絡ノートを用いて、情報交換を行っています。親子遠足やスポーツフェスティバルなどに保護者に参加してもらったり、期間を設けて保育参加をしてもらったりするなどして、園での保育の意図や保育内容について保護者の理解を得るための機会を設けています。</p> <p>保護者会(懇談会)を年2回開催してクラスの活動内容や子どもの様子を伝えているほか、毎月発行している園だよりには、各クラスの保育目標や活動の様子を掲載して、保護者と子どもの成長を共有できるようにしています。保護者から得た情報を必要に応じて、職員会議やクラスミーティングで報告し合い、記録して職員間で共有しています。</p>		
A-2-(2) 保護者等の支援		
【A18】	A-2-(2)-① 保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。	a
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>保護者からの相談は、日常的なコミュニケーションの中で、受けることもあり、保護者が話しやすい対応を心がけ、信頼関係を築くよう努めています。必要に応じて、保護者の都合に合わせて日時を決めて、相談に応じるなど配慮しています。相談内容に応じて、保育士だけではなく、看護師や栄養士なども対応し、専門職の立場から保護者への適切なアドバイスができるようにしています。</p> <p>相談を受けた職員が対応に困ったときなどは、園長が助言をしたり、一緒に同席したりするなどして対応しています。受け付けた相談内容や対応については、個人面談記録に記載して継続的にフォローができるようにしています。</p>		
【A19】	A-2-(2)-② 家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。	a
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>マニュアルに、虐待の早期発見チェックポイントや虐待等権利侵害を発見した時の対応が明記されており、職員に周知しています。また、虐待防止に関する外部研修に参加したり、職員会議でマニュアルの読み合わせを行ったりするなどして、知識を深め、虐待等権利侵害の兆候を見逃さないよう、子どもの心身の状態や家庭の状況の把握に努めています。</p> <p>虐待等権利侵害の可能性があると判断された場合は、速やかに園内で情報を共有し、対応を協議することとしています。必要に応じて、都筑区こども家庭支援課や横浜市北部児童相談所などの関係機関と連携を図れるよう、体制を整えています。</p>		

## A-3 保育の質の向上

		第三者評価結果
A-3-(1) 保育実践の振り返り(保育士等の自己評価)		
【A20】	A-3-(1)-① 保育士等が主体的に保育実践の振り返り(自己評価)を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。	a
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>指導計画に対する保育の実践について、クラスごとのミーティングで、担当職員で意見交換を行い、主体的に振り返りを行っています。話し合った内容をもとに、子どもの心の育ち、意欲や取り組む過程に配慮して月間指導計画と週案の評価・反省を記録して、職員間で共有しています。</p> <p>各クラスの保育実践の振り返りを毎月の職員会議で報告し合い、職員全体の意識向上につなげるとともに、保育の質の改善や専門性の向上に向けて取り組んでいます。職員個々の自己評価は年に1回実施しており、保育所全体の自己評価につなげています。</p>		